



あい 愛  
あい 逢

第  
47  
号

特定非営利活動法人 愛逢

尼崎市小中島1-20-21  
電話 06-6493-1424  
FAX 06-6493-1443  
発行責任者 長谷川 達雄  
発行日 2013年1月22日

## 2013年 新年のごあいさつ！

新年あけましておめでとうございます。皆様には、平穩に新しい年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

当法人の中期ビジョンの中に、「平和や環境問題を組織的課題とする」目標があります。年末総選挙の結果から、否応なくこの目標が大事なこととして意識する、そんな新しい年明けになりました。

支え合う、住みよい地域づくりを叫ぶことができるのも、何はともあれ平和な社会があつてこそ。

今年も、皆さんと一緒に、事業や活動に邁進していきたいと思っています。どうかよろしくお祈りします。

<理事長 長谷川 達雄>

## ホームホスピス全国合同研修会開催

2012年11月23日～25日の3日間、熊本県で『看取りの家が生まれた当初のホームホスピス本来の想いや姿を保ちながら拓げていきたい』との思いで行われた研修会に報告者として参加しました。

「本来のホームホスピスの想いや姿とは・・・」

参加したスタッフは、本人やその家族と地域との信頼関係の中で自分らしく生活できる居場所であること、あり続けることだと再確認できました。

1日目は、「自然死のすすめ」で有名な中村仁一医師の講演、2日目はホームホスピスを知ってもらうことを第一の目的としたシンポジウムが開かれました。コメンテーターとして参加いただいた厚労省の唐沢氏から「ホームホスピスわれもこう」を見て「これは地域から生えてきたもの」という表現で評価を頂きました。



会場には「私も創りたい」と考えて参加された方々がたくさんおられ、世の中の胎動を肌で感じました。ホームホスピスの理念、基準、運営、教育、地域社会との関り等8つの分科会に分かれて真剣に討議しました。

初めての試みではありましたが、かえって確かな次の第一歩を踏み出す土壌ができたように感じました。

<兼行 栄子>

# 私たちの愛逢を語ろう知ろう

～古きを尋ねて新しきを知る～ 2012年12月9日(日) 小中島会館

愛逢の研修の一環として、会員・ボランティア・スタッフ23人が一堂に会し岩本理事のファシリテートのもと、情報の共有を行いました。原点となった愛逢くらぶ設立に携わられた石井淑子さん・兼行栄子さん・松井泰子

さんに愛逢くらぶ発祥のエピソード～設立後の活動など、様々な“愛逢の姿”を語っていただき、当時を知らない参加者は多くを学ぶことができました。(※ファシリテート・・・中立的立場で議事進行を行うこと)

## 《写真から振り返る》

研修は、愛逢くらぶ当時の活動写真を見ながら始まりました。参加者の中から「こんなんしてた！してた！！」「これあの時や。」と早速記憶が蘇ります。



## 《語り手たち》



【現在も愛逢でのスタッフである兼行さん】

「地域にあるニーズを満たすために何をすべきかという視点で活動を展開してきた。その結果として移送サービス・車椅子の宿泊旅行・配食サービス・ミニデイ等の日々の助け合いの活動が生まれ、常に地域の人が住み続けるために何が必要かを考えてやってきました。」と語られました。当初は、ボランティアで協力してくれる人が本当にいるのだろうかという不安があったそうです。

【<sup>いま</sup>昔も現在もボランティア一筋で数々の活動に参加されてきた松井さん】

「誰かの手伝いのためにボランティアをやってきたんじゃないです。自らの生涯教育のために、自らを豊かにするためにやってきました。ボランティアはやらなければいけない事をするのではなく、自分が出来る事をするという事が長続きの秘訣ですね。」とお話しされました。さらに「ボランティアは開拓者だ。」と締め括られました。



【愛逢くらぶの初代代表をされていた石井さん】

「福祉とは、今まで受け身なものと思っていたが、これからは創っていく時代だと教えられ、豊かなまちづくりは住民がみんな心やさしく横の関係を大切にしなければ実現しない事。そして小さな思いやりこそが地域を変えていき、やがて必要なことは必ず広がっていくものである。そして、一つ一つのニーズに答えていける私たちの活動を信頼される存在にまで高めていきたいとの思い」(愛逢ニュース1号から引用) この思いが今も続いている。

# 《ディスカッション》

語りを聞いての感想を、参加者全員でディスカッションをしました。たくさんの意見や感想がありましたが、一部をご紹介します。



この地域をもっと  
知りたくなった

想いをつなぐバト  
ンリレーが重要だ

愛逢に関わられて  
感謝！！

歴史を感じた

とにもかくにも  
すごい！！

自分の住む地域に愛逢のよう  
なところがあればいいのに

忘れかけていた“あの頃”  
を思い出せてよかった

今回の研修で、設立当初の想いを引き継いで活動していく事の重要性が参加者の中で共有できた。設立当初と現在では、社会の課題も変化してきておりさらにコミュニティの希薄傾向にある中で、愛逢の使命は何なのか原点に戻り考えさせられた。

職員とボランティアの役割分担はあるものの、それぞれの「やらなければならないこと」と「出来る事」を共存させていくチームプレイで、誰もが安心して暮らせる地域をつくる為に仲間と支え合いつなぎあって活動していきます。

## 次回ご案内

2013年3月20日  
小中島会館にて

今回の研修では【愛逢くらぶ発足】をテーマにしましたが、続編として【NPO愛逢となって】というテーマで第2回目を予定しております。「NPOになった動き」「愛逢はな

ぜNPOでないといけないのか」を、探ります。地域の一人でも多くの方と一緒に共有したいと思しますので、お誘い合わせのうえぜひご参加ください。

## おでかけ隊～さよなら愛逢号～



愛逢号に乗って、おでかけ隊が篠山散策をしてきました。24時間テレビで幸運に恵まれ「車椅子搭載車」がプレゼントされたのは、阪神・淡路大震災の年の1995年12月でした。それから大勢の人々に利用されて喜ん

で頂けた事でしょうか？17年間お疲れさまでした。感謝をこめて「ありがとう」

＜楠元 きみゑ＞

12月7日寒空の中、愛逢号に乗り篠山まで、総勢11名で行って参りました。私にとっては最初で最後の愛逢号での遠出でした。同乗していた方々に愛逢号の歴史を教えていただいたり、篠山町の城下町を散策中に意外な一面が拝見出来たりと、素敵な時間を過ごす事が出来ました。愛逢号とはお別れですが、また違った形で会員の皆様と一緒におでかけ出来る機会が持てたら良いなと思いました。当日参加された皆様お疲れ様でした。

＜磯本 味沙＞

# さあ、遺言を書いてみよう！！ ～公正証書遺言について～

前回まで、遺言書をすべて自分で書き、し  
かるべき方法で保管しておく自筆遺言のこ  
とについて触れてきました。

繰り返しになりますが、この方式による遺  
言は相続人間で争いが起きやすく、執行がで  
きない場合があるなど、留意すべき点が幾つ  
かあること。家庭裁判所の「検認手続き」が  
要ることを書いてきました。

これらの点を解決するものとして、「公正  
証書遺言」があります。

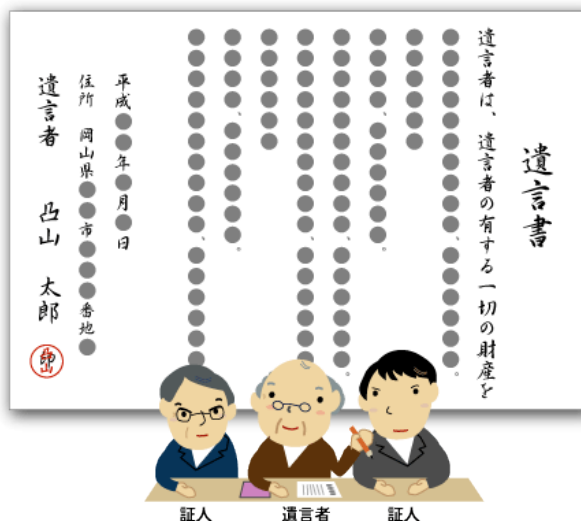
「公正証書遺言」とは、遺言者が自らの意  
思で、どういう遺言をするかという趣旨を公  
証人に口述したものを、公証人が書面にした  
ものです。作成後、原本が公証役場に保管さ  
れるため、紛失や変造、相続人による破棄、  
隠匿の恐れがありません。家庭裁判所の「検  
認手続き」が要らないので、即時に執行がで  
きます。

こうして作成された遺言書は、公証人がそ  
の真正を担保にしているために無効になる  
ことはめったにありません。但し、遺言者が  
遺言当時、遺言をする能力があったかどうか  
で争われ、無効とする判例もあります。念の  
ため遺言する能力が、後日争われる可能性が  
考えられるときは、医師の診断書をとってお  
くことが、一つの予防策になります。

概ねこれぐらいのことを頭に入れ、いよいよ公証役場（尼崎は阪神尼崎の三和商店街の北入口、二号線近く）へ出向きます。その時必要なものは、証人が二人、作成費用と遺言

## 1 普通的方式 公正証書遺言

[004-05-01]



者の印鑑証明書、戸籍謄本等が必要になりますが、詳しくは直接問い合わせ確認した方が間違いありません。（実際は、事前に遺言の趣旨と必要書類等を公証人に渡しておいて、遺言当日は署名・押印すればいいように手配をしておきます。）

こうしたできた「公正証書遺言」ですから、100%争いが無いかというと、残念ながらそうではありません。相続人間の相続割合に不平等がある場合には、遺留分を巡って血肉の争いに発展する場合も少なくありません。

金目のものがあるがなかろうが、親子・兄弟姉妹の間での争いがおこりようもない、円満な人間関係を残すこと。これに勝る「財産」はありません。今更手遅れといわずに、是非是非、この「財産」作りに精を出したいものです。

＜長谷川 達雄＞

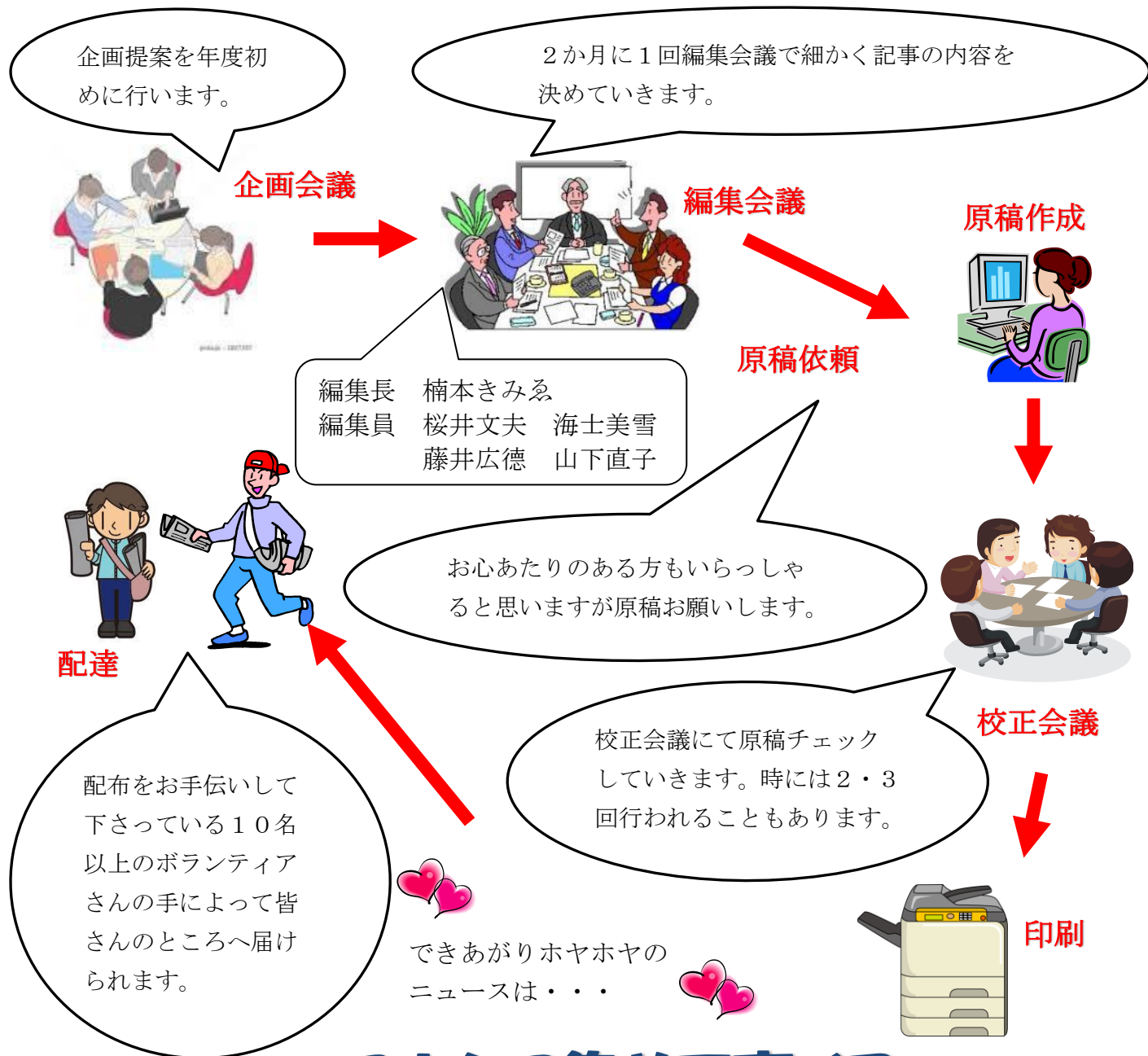
## ミッション(社会的使命)

私たちは多様な生き方が尊重され、  
誰もが安心して暮らせる地域を作る為、  
仲間と支えあい(愛)、つながり(逢)っていきます。

# 愛逢を支える人たちシリーズ

## 《愛逢ニュースがお手元に届くまで》

年に6回、皆さんのお手元に届く“愛逢ニュース”は、ボランティアさんに愛逢スタッフ2名を加えた編集委員で作成されています。ここでもボランティアさんが活躍されているのです。ニュースをご覧になられた、ご意見ご感想をどんどんお寄せください。



## ﾌﾙﾀﾌﾞ集めて車イス

地域の方から集まったプルタブを2012年8月3日80kg、12月18日45kgを(株)キューピー伊丹工場さんにお届けしました。2012年2月から新たに集め始めたプルタブはこれまでで660kgとなり、3代目の車イスまで残り30kgとなりました。(約690kgで1台の車イスとなります)ご協力いただきありがとうございます。



# 第21回雪まつり

今年も2月11日(祝日)建国記念の日に  
田中の丸橋公園で雪まつりが開催されます。  
愛逢は「炊き込みご飯」100円で販売を予定  
しています。  
皆さんそろってご参加してください！



## 待ってまーす！！



## ホット待夢



新しい年が明けました。お正月はいかがお過ごしでしたか？

遠くで暮らす、息子・娘一家が帰省されたお家もあったでしょうね。昨年末に日本経済新聞がインターネット調査した、義父母の本音、嫁・婿の本音トップ10が紹介されていました。

義父母のトップ3は、一位「大げさな手土産はいらない」二位「一緒に過ごせて楽しいが、別れた後とても疲れている」三位「長い滞在は遠慮してほしい」

嫁・婿のトップ3は、一位「何もすることがなくて暇だ」二位「料理が多すぎて食べきれない」三位「自分たちに構い過ぎず、ゆっくりしてほしい」

孫は来てよし、帰ってよし…という言葉もありますね。

老夫婦二人のライフスタイルに戻りほっとされた…というのが本音でしょうか。

一番親しいはずの家族の間柄でも、人間関係はなかなか複雑なものです。

コミュニティが希薄化しているという、今の社会にあっては言わずもがなです。

でも、だからといって手をこまねいてはいけませんね。人と人との間に入って繋いでいきましょう。

「友だちの友だちはみな友だちだ」という言葉もありますもの。

< 海 >

今号での“知っていますか？”はお休みします。

